

第 19 号証

陳述書 2

大阪地方裁判所 第 1 1 民事部合H係 御中

林 俊 彦

記

原告の会の安田、溝口、鎌田氏 3 名の陳述書を読んで、一言申し上げたく陳述致します。

1 安田氏は広島在住の元スタッフであり、広島ドッグパーク（以下「DP」）レスキュー前から団体の活動に参加していました。

彼女の職業は看護師で、病院勤務後、午後 8 時から 9 時頃に広島の現地に参加すると言う状況でした。実際の作業としては譲渡会が行われた時以外は数回程度でした。

彼女が陳述書にも述べている通り、広島 DP レスキュー時では仕事柄、常時いる他のスタッフさんと同様の活動参加形態ではなく、時間が取れば現場に来る、それも病院勤務後の夜にしか来られない、といった参加状況でしたので、活動内容や作業形態を全て把握していることはありませんでした。

現場では、常には居ないため、責任ある作業や継続して行う作業は任せられず、単純作業をしてもらっていました。

無償奉仕が原則であるボランティア活動ですから、強制力もなく、自己責任において参加して頂くことに意義があるので、時間のあるときに参加してくれる、その事だけで充分でした。

団体の活動内容に疑問を持っていたとの陳述ですが、個人がどのように判断されて、何を感じて陳述されたのかは想像も出来ませんが、参加している間はスタ

ップの一員として作業をしていたのを見えています。

その彼女が私を非難し疑いの目で見っていたことは驚きと落胆を隠せませんが、そのように見えていた事は事実として真摯に受け止めようと思います。

他の溝口さん、鎌田さんも同様に、噂や一部のマスコミの恣意的なワイドショー報道により疑惑を生じ誤解されていると思います。

- 2 溝口氏については、大阪事務所での多大なご支援、広島 DP へのボランティア参加など、ご支援を賜り感謝を申し上げたいと思います。現場では汗びっしょりとなって犬たちのお世話をして下さっていました。お互いに現場でお声掛けをさせて頂いたのを覚えております。人の風評や噂を信じての事で、ご自身が当初になされた見返りを求めない慈善行為を信じて立ち返って欲しいと願います。
- 3 鎌田氏も当初、悲惨な現状をマスコミ等で知られ、ご支援頂き、団体の活動主旨にご賛同頂き、会員にもなって頂きました。その後、某マスコミの疑惑報道からそれらを信じ、非難を浴びる結果となりましたが、これもメディアの怖さと実感しております。一日も早く、真実を見られて誤解を解いてほしいと願っております。
- 4 安田氏は、広島 DP 撤収後も、スタッフとして犬の搬送や里親募集、譲渡に関わり自ら進んで活動に従事していましたので、今、何故このように述べているのか理解に苦しむところです。今も以前からも団体への活動参加は、自身の自発的行為が原則で強制ではありません。

まして、安田氏へ里子に出した犬を取り上げるなど、被害妄想も甚だしいと考えます。

陳述内容についても事実関係が間違っている事もあり、人伝の噂等を事実として捉えている様子が窺えます。

関氏との車購入のトラブルは事実ですが、車を取り上げてスタッフに転売した記述は嘘であり事実と違います。人の噂を信じて思い込まれているようです。

目測70リットル入りの募金箱があったと述べられていますが、実際には存在

などしておりません。常時いたスタッフであれば把握できることです。

陳述のほとんどが「聞いております」「思っております」とのことですが、上記の車の件同様に、噂を或いは人伝に聞いた事を事実として述べられています。

何を感じ、何を疑問に思われたのかは知りませんが、私たちの動物愛護活動は1頭でも多く、不幸な環境下にいた犬たちを救う事に問題はなく、間違いはないと確信しています。

犬たちへの治療行為についても述べられていますが、当時、適切な判断のもと、獣医師の指導のもと、行動をしておりましたし、日々活動をする中、常に参加をしていない安田氏に関わった事案は皆無でした。

現実には、多くの犬たちが救われ助かった事は事実であり、紛れもない結果です。

保護犬管理リストにしても1頭ずつの管理ファイルが存在し、代理人弁護士に預けてありますし、広島獣医師会の作成カルテもあります。また、広島市動物管理センターとの連携にて、保護犬頭数の管理及び譲渡後の管理報告や狂犬病予防法に基づくワクチン接種、畜犬登録も適正に行いました。日々の犬の譲渡による頭数移動も書面にて報告をしておりました。広島市にてご確認できます。

5 周りの方の色々な意見や反感、妬み、風評、噂が起きた事は事実ですが、世界でも例の無い前代未聞の大きな動物虐待事件でした。色々と言及が伴うのは覚悟をしていました。

しかし、そのような風評、噂や反感が起きたとしても、目の前にいる悲惨な犬の現状を見た時、私はそのような理不尽な噂等に翻弄されることなく、救済活動を最優先の上、重視し、このレスキューを敢行させなければなりませんでした。

一広島市民の方がこの虐待事件を知り、近県から始まり全国の愛護団体に通報されたものの、救済頭数が多過ぎて誰も動かず、何処の愛護団体も手を付けず断られて、全てから見離された動物虐待事件でした。通報者が必死で訴えてきたのに誰も助けに動かなかったのです。

誰かが救わなければ全ての犬たちが死んでしまう、或いは全頭処分されてしまう、そういった切羽詰った状況だったのですが、唯一、行動を起こしたのが偶さか私だったのです。それすらも仕組まれたレスキュー劇だとさえ噂をされていました。

現場では、一日に多い時で500人以上のボランティア参加者が集まり、奉仕活動に参加されました。少ない時でも100人以上の方が参加されました。保護犬が半数以下になってこそ参加者は減りましたが、それでも約3ヶ月の間に延6000人を超える人たちに手伝っていただきました。

全国からの参加者は面識もなくその時に初めて出会った方たちばかりです。その方たちとのただ一つの共通点は、動物たちが可哀相だから救ってあげたいとの一心からの、一点です。

見知らぬ人たち、延6000人を超えるボランティアさんを束ねての活動組織を運営、管理するには、一言では言い尽くせない想像を絶する苦勞がありました。3ヶ月間という短期間で保護犬を飼養管理し、譲渡し或いは断るなどの作業で、私自身、現場で倒れた事もあり、心身ともに限界がきておりましたが、気力と多くの方々の声援、支援を受けて無事に完結し、年末に現地広島から撤退したのでした。

6 支援金や支援物資は善意の証です。その善意を悲惨な犬たちに役立てて救う行為ですが、労働を奉仕される方、支援金や支援物資の形で参加される方など、参加形態は様々ですが、大切な気持ちの表れです。

これらに対して私が応えることが出来るのは、唯一、現場に居る580頭の犬の命を救う事であると自覚をしておりました。多くの支援とその思いが虐待現場にいた580頭もの犬の命を救えたのです。

混乱した現場での作業を始めとして、不特定多数の善意のボランティアさんたちの参加、多くの義援金、救援物資が救済活動を大きく支えた、尊い行為でした。一つ一つの善意の行為が集まって広島 DP 事件に集結し、多くの不幸な犬たちが救

おりましたが、人の情けが薄れる世の中で、全国の人々が注目し参加した素晴らしい動物救済活動だったと今でも誇りに思っています。

7 その後も、このような虐待事件に幾度となく遭遇しましたが、広島 DP 事件を重い経験としてレスキューノウハウを身に付けて動物愛護活動を継続しております。あれだけの頭数を救った後の動物虐待レスキューでは、50頭、100頭といった頭数のレスキュー依頼には、臆せず動じることなく救済活動を敢行する事が出来ています。これも大きな経験が基礎となっています。

その中で、一部の批判や非難を浴びましたが、それ以上の多くの善意の方々の声援や支援もあり、ここまでめげずに活動を継続してこれたのです。

8 強いリーダーシップと人一倍強固な意志を持って行わなければ、救えない現場でした。

現在でも日々、捨てられたり飼育放棄をされて、全国自治体の行政機関で殺処分されていく犬猫が年間38万頭います。

私としては、人と動物とが共生できる世の中にしたいため、将来の日本を背負う子供たちが命の大切さを学ぶ情操教育の一助になればとの思いもあり、自分自身が先頭になって立ち上がり、多くの方々に呼び掛けて保護活動をしなければ、劣悪な飼育環境下にいる小さな命を救えないと、危機感と使命感を持って活動を継続しています。

悲惨な現場でレスキュー活動に参加した人たちは多くいましたが、その中で中心となったスタッフさんも去っていく人、活動を継続されている人、様々です。

安田氏は辞められましたが、当時から参加しているスタッフ、常時、現場に居た方は今も健在にスタッフとして活動に参加されています。活動自体に疑惑があったり不正な行いがあれば、人は付いてこないし活動の継続も困難だと思います。ご支援者にしても、当時から今も変わらずご支援を賜っておりますが、私たちの日々の活動を評価してくださっている証と思います。

9 今回の訴訟においては、出る杭は打たれるがごとく、活動への妨害もあり、ま

た誤解を招くなど、自身の不徳の致すところもあるかと反省もしておりますが、決して、人々の善意を裏切ることなく精一杯、懸命に努力し、身を犠牲にして行ってきた事は、私自身、胸を張り、神に誓える事です。一日も早く、思い違いや風評、噂に翻弄されている方々に誤解を解いて欲しいと願うものです。

もとを糺せば、善意から行動を起こされた原告の方々を批判するものではありません。

以上

平成二十一年 8月27日

滋賀県高島市今津町酒波1186-2

林 俊彦 (林)